

地域公共交通の経営から 地域活性化を考える

「取材協力者」

永井 和久氏 島原鉄道(株) 代表取締役社長

近年、土木の仕事や専門領域は一層広がりを持ち、多様な人材を歓迎するドボクへと変化している。本企画では、少し特殊な経歴や分野から土木に関わりを持たれる人物を紹介し、今後求められるドボクへの関わり方について考えたい。最終回は、島原鉄道(株)代表取締役社長の永井和久氏にお話を伺った。取材中、永井氏は「つながり」に関する言葉を何度も口にされていたため、「つながり」という言葉をキーワードに、永井氏の取り組み方を考える。永井氏が考える地域公共交通の取り組み方とは。

島原鉄道の社長に就任されて――身近な「つながり」の構築――

永井氏は「つながり」を回路に例え、以下のように語られていた。

上手につながっていない場所や新しくつなぐことができる箇所を探すためには、自分の目で現場を確認することやスタッフや関係者と話すことが重要であり、そのような取り組みが

りを創出する基盤となる。

永井氏は就任後、全路線全駅の視察を行うとともに、アルバイトを含めた全社員と1対1で話す時間を設けるなど、島原鉄道のあらゆる要素を直接確認した。この過程を通して島原半島の魅力に大きく気付かされるとともに、まだまだ島原半島の魅力を十分に発信しきれていないことを強く感じたそう

だ。このような取り組みが、島原鉄道が島原半島の魅力を発信しようという姿勢に結び付いたと考えられる。

「つながり」をつなぐ島鉄 つながる島原

島原鉄道では島原半島の魅力を発信するために「つながり」をつなぐ島原」というコンセプトが掲げられている。島原半島は九州の中心に位置するため、陸上交通だけでなく海上交通を活かすことも可能である(図1)。そのため、永井氏は「島原鉄道は島原半島内だけでなく周囲の地域を含めた、人々の移動において中心的な存在になることができる」と考えたそうだ。またこのコンセプトには、島原鉄道が地元の人々、ひいては地域全体をつなぐ役割を担おうという思いも込められ



永井和久氏

NAGAI Kazuhisa

長崎市出身。長崎大学経済学部卒業後、長崎自動車(株)入社。2018年、島原鉄道の長崎自動車グループ化の際に島原鉄道(株)社長に就任。



図1 「つながり」をつなぐ島鉄 つながる島原」のイメージ(提供:島原鉄道(株))



写真1 美しい景色の中を走るサイクルトレイン仕様の車両 (提供：島原鉄道(株))

ている。永井氏は、島原鉄道の認知度が高まれば島原半島全体の認知度も高まり、交流人口が増え、地元の人がよく幸せに過ごせる、住み続けたいと思うようなまちになると語っていた。このように永井氏はまちづくりを念頭に置いて事業に取り組みられており、地域公共交通が地元にもたらしているさまざまな効果を意識することの重要性を感じた。

「つながり」を作るための極意とは

取材中に、永井氏から印象に残る言葉を複数伺い、私はそれらが「つながり」を構築する際に重要な役割を果たすのではないかと考えた。特に印象に残った言葉は、

取材中に、永井氏から印象に残る言葉を複数伺い、私はそれらが「つながり」を構築する際に重要な役割を果たすのではないかと考えた。特に印象に残った言葉は、

「つながり」を活かして課題に取り組み

島原鉄道ではさまざまな主体とつながりを作ること、すなわちコラボを積極的に進めている。交通事業者だけでなく、地元の飲食店とコラボして「しまつカフェトレイン」で食事を提供したり、有明海を挟んで面している熊本県天草市の観光施設とコラボしてサイクルツーリズム(写真1)に取り組んだりとコラボ相手は多岐にわたっており、島原鉄道を媒介に島原半島の魅力の発信に努めている。

そして現在、ソフト面だけでなく、ハード面におけるコラボにも意欲的である。島原鉄道のような民間経営の鉄道事業者にとって、枕木や線路等の維持管理といったハード整備は多額の費用がかかり負担も大きい。そこで永井氏はハード整備事業においてもコラボを行い、コスト削減に取り組もうとされている。具体的にはICT技術を用いたハード設備の維持管理手法の共同研究や実証実験などに関心を持たれて

おり、その際にコラボ相手に島原半島の魅力が伝わればうれいしと話されていた。このように永井氏は一貫して、『島原鉄道とつながりを持った、観光客やビジネスパートナー等のあらゆる人が、島原半島の魅力に触れ、また訪れたいと思ってほしい』という思いを持たれており、地域公共交通と他主体のコラボが多方面に発揮する効果や可能性を強く感じた。

取材を終えて

今回の取材を通して、鉄道事業者だけでなく、地域のさまざまな立場の方がさまざまな形で地域公共交通に関わりを持つことが、地域公共交通、地域の活性化に重要であると感じた。また、何事にも楽しい気持ちで取り組むというような永井氏の事業へのご姿勢も大変勉強になり、私たち自身もそのような姿勢を持ち、物事に取り組むたいと思った。

(注1) 島原鉄道(株)は長崎県の島原半島にある1908年創業の会社であり、鉄道やバス、フェリーなどさまざまな公共交通機関を提供し、島原半島全体の地域公共交通を支えている。
(担当編集委員：植野弘子、宮田比奈)